

品種解説：「いでゆもち」

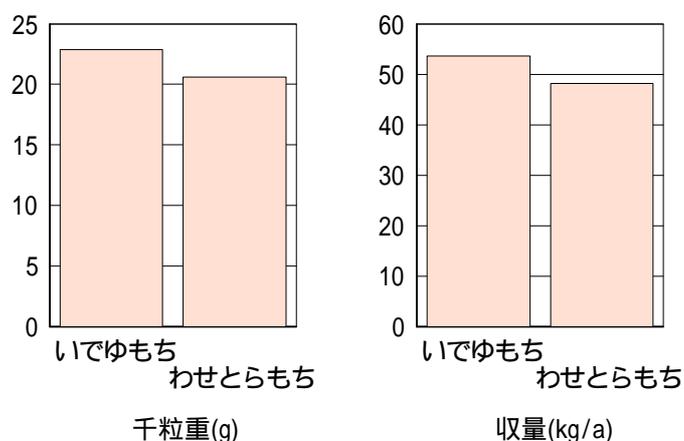
概要：本品種の障害型耐冷性は「わせとらもち」より強く、“中”である。名前の意味は、“出湯がたくさんある高冷地で栽培されること”を表現する。

1．来歴の概要

「藤もち 773 (オトメモチ / 藤 329)」を母とし、「わせとらもち」を父として、1982年に青森県農業試験場藤坂支場で交配された。1989年に「ふ系糯 156号」の地方番号が付けられ、1996年に水稻農林糯 341号として登録された。

2．形態的特性

- ・ 稈 長：「わせとらもち」よりやや短く、「アネコモチ」並みかやや長い。
- ・ 穂 長：「わせとらもち」よりやや長く、「アネコモチ」並みである。
- ・ 穂 数：「わせとらもち」並みかやや少なく、「アネコモチ」より多い、短稈、偏穂重型の糯種である。
- ・ 粒 大：「わせとらもち」並みであるが、粒厚が厚い。
- ・ 千粒重：「わせとらもち」「アネコモチ」より重い。



3．生態的特性

- ・ 出穂期・成熟期：「わせとらもち」並みで、育成地では“早生”である。
- ・ 収 量：「わせとらもち」並みかやや優り、「アネコモチ」並みである。
- ・ 耐倒伏性：「わせとらもち」並みで、「アネコモチ」より弱い。
- ・ 葉いもち抵抗性：“やや強”
- ・ 穂いもち抵抗性：“中”
- ・ 耐冷性：「わせとらもち」より強い。
- ・ 穂発芽性：「わせとらもち」並みである。

特 性	いでゆもち	わせとらもち
耐冷性	中	やや弱
耐倒伏性	やや強	やや強
葉いもち抵抗性	やや強	やや弱
穂いもち抵抗性	中	中
穂発芽性	易	易

4．品質・食味特性

- ・玄米の外観品質は「わせとらもち」に優るが、「アネコモチ」より劣る“上の下”である。
- ・餅の食味はこしが強く良好であり、「わせとらもち」より優る“上の下”である。

5．適地等

- ・寒冷地北部の冷涼地帯、その他寒冷地の山間地および関東以西の山間冷涼地帯に適する。

6．栽培上の注意

- ・耐倒伏性は“やや強”であるが、品質・食味の低下を防ぐためにも多肥栽培は避ける。
- ・穂発芽性が“易”であることから、適期刈り取りにより品質の低下を防ぐ。
- ・いもち病圃場抵抗性は葉いもち、穂いもちともに十分でないことから、基本防除を励行する。
- ・耐冷性は“中”と十分でないので、低温時には深水灌漑を行って幼穂を保護する。
- ・白葉枯病に弱いので常発地での作付けを避ける。

<参考資料>

農林水産省農林水産技術会議事務局（平成8年8月）：平成8年農林水産省育成農作物新品種（夏作物・園芸作物）。